

資料 2

令和8年6月4日（木） 15:30～
令和8年度 第1回
大阪府河川構造物等審議会

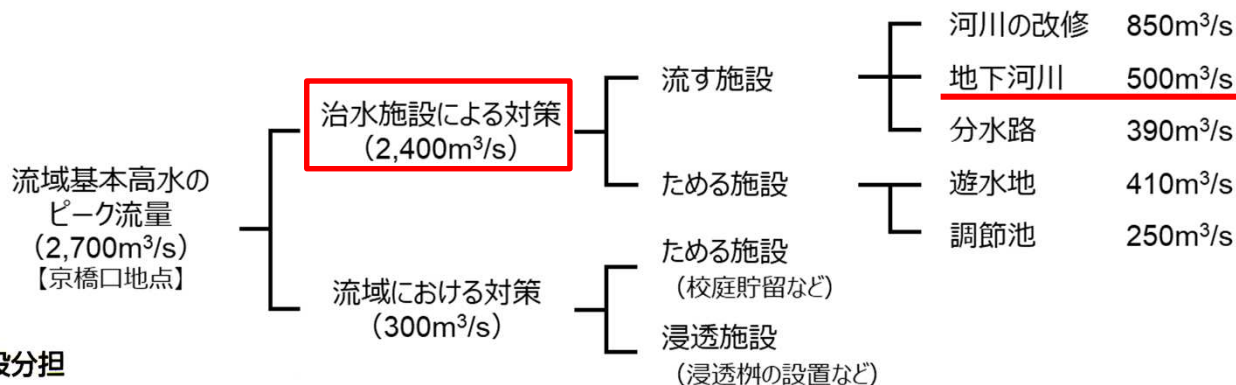
令和8年度 第1回 大阪府河川構造物等審議会

【資料 2】 大阪府河川構造物等審議会 審議目的

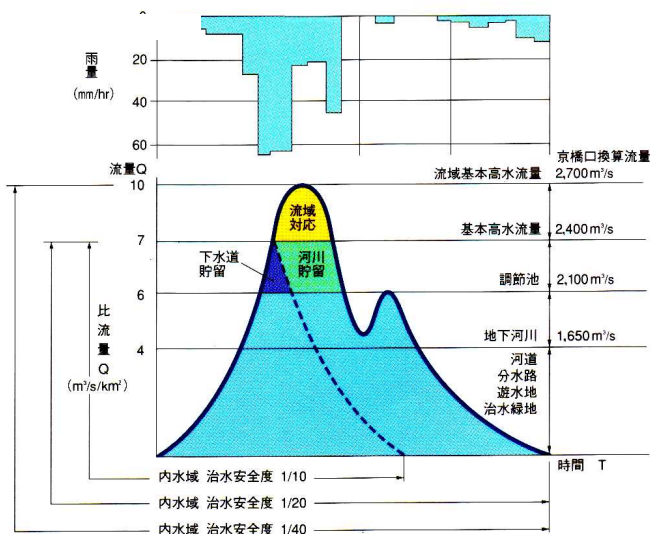
寝屋川北部地下河川の概要

寝屋川流域総合治水対策の概要

人口・資産が集中する寝屋川流域は、急激な市街化により、河道拡幅が不可能であるため、河道改修だけでなく、分水路、遊水地、**地下河川**、流域調節池等の整備を組み合わせ、流域全体の治水安全度の向上を図っている。
 昭和32年に八尾で観測された戦後最大実績雨量（時間最大62.9mm、24時間雨量311.2mm）が流域全体に降ったときの京橋口での流域基本高水流量2,700m³/sに対し、この内300m³/sを流域における対策で低減させ、残りの2,400m³/sを河川や下水などの治水施設で対応する計画としている。



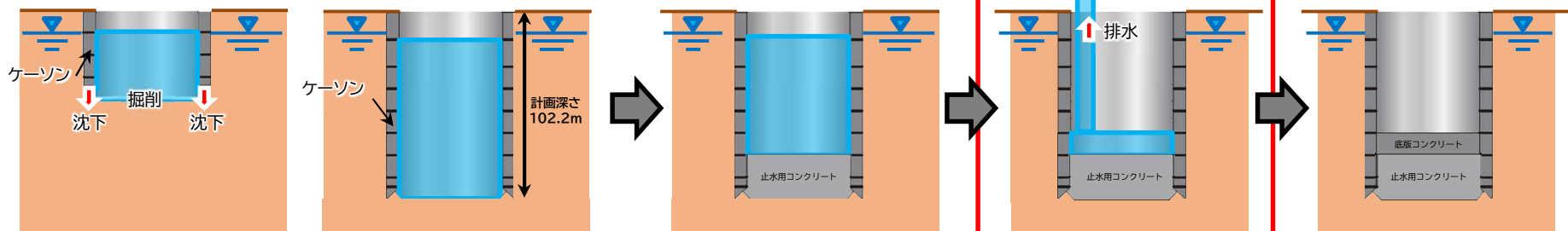
計画対象降雨及び施設分担



河道改修	洪水を安全に流下させるための河道の拡幅、堤防の嵩上げ、河床の掘り下げ、橋梁の改築などの事業
地下河川	河川の拡幅や新たな河川の掘削が困難な密集市街地で、道路等の公共施設の地下空間を利用した放流施設
分水路	本川(寝屋川)の洪水負担を軽減するため、洪水を分流する新しい河川
遊水地	河川からの洪水を一時貯留し、下流河川の負担を軽減するための施設
調節池	水路や下水道が流しきれない雨水を一時貯留し、周辺地域の浸水被害を軽減する施設
流域対策	学校や公園などの公共施設や民間開発などにおいて、雨水を一時貯留・浸透させ、降った雨が一気に河川に流出しないようにする対策

発生事象

■ 立坑築造工事の手順(イメージ)



①ケーソンの沈設

立坑に水が抜けて、周辺の地下水位が低下しないよう、ケーソン内部に水を張りながら、底面の掘削を進める。
※地下水低下に伴う地盤沈下を防止するため。

②止水用コンクリートの打設

ケーソン沈設完了後、周辺の地下水がケーソン内部に流入しないように止水用コンクリートを打設して、底面に蓋をする。

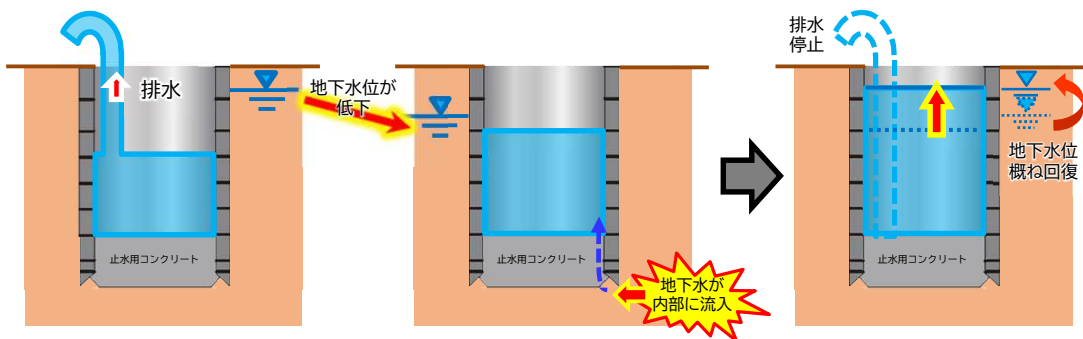
③ケーソン内部の排水

止水用コンクリートの打設完了後、ポンプにより内部の水を排水する。

④本体底版コンクリートの打設

排水完了後、本体底版コンクリートを打設し、立坑を完成させる。

■ 今回の発生事象



- ・ 上記、手順の③における排水を行っていたが、底面の一部から地下水が内部に流入していることが判明。
- ・ 現場周辺に地下水位の影響を観測する観測井を設けており、これを確認したところ、地下水位の低下を確認。

排水を停止し、立坑内水位を上昇させることにより、地下水位は概ね回復した。
➔ 周囲への影響はなし



ケーソン排水時状況



大阪府河川構造物等審議会 審議目的

■ 審議目的

1. 地下水流入の原因 …………… 地盤条件、設計、施工の3つの観点から分析
2. 対策工法 …………… 地下水流入をどのようにして止めるか

■ 審議スケジュール(予定)

